

子どもの鼻かぜ！受診の目安は？

多くのかぜは、ウイルスや細菌が鼻に入り鼻の粘膜で増殖することで感染が成立します。鼻水は、鼻の中で増殖するウイルスや細菌を洗い流すための生体の防御反応です。そのため、お薬を使って鼻水を止めるのが必ずしもいいとはかぎりません。**病院を受診する目安は、鼻水の状態と日常生活に影響が出ているかどうかで判断**すればいいと思います。

鼻水の状態からは次のような病状が疑われます。

- ①水のような鼻水：アレルギー性鼻炎、風邪の初期
- ②色が薄くねばい鼻水：かぜの中期以降
- ③色が濃くねばい鼻水：副鼻腔炎、中耳炎、異物
- ④鼻水がのどに流れこむ(後鼻漏)：長引く咳、副鼻腔炎。

この中で③、④の場合は病院を受診した方がいいでしょう。また、「ミルクが飲みづらい」、「鼻が詰まって夜眠れない」、「機嫌が悪い」など日常生活に影響が出ているときも病院を受診するタイミングと考えます。

1月の感染症情報

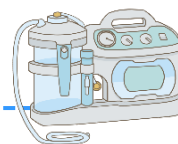
インフルエンザが小規模に流行しています。A型(AH1pdm09)が主ですが、一部B型の報告もあります。

～子どもの鼻水のケアには吸引が有効～

<家庭で行う鼻汁吸引>

○加湿すると鼻汁がやわらかくなり吸引しやすくなるので、お風呂のあとに吸引すると効果的です。

○母子感染の可能性があるので、子どもの鼻に直接口をあてて吸引するのはやめましょう！！吸引器の使用をおすすめします。電動吸引器は、手動タイプよりも吸引力があり、楽に吸引することができます。(ネットなどで、10,000円～15,000円程で購入できます。)



シリーズ キッズケア・青い鳥がめざす保育 ⑧

～ 発達を学び、発達の一步前の活動を知ること、発達を促す保育を！～

昨日・今日・明日など、時間の流れが分かるようになったよ

5.6歳ごろ

～なりたい自分になるためにがんばりたい～

「中くらい」「だんだん」が分かるようになり、修正する力がついてくるよ

心の中で考える力がつき、すじみち立てて表現できるようになります。「えーと」「えーと」と考える時は、手がかりをあげながらも「ゆっくり、じっくり」待ってあげましょう。

友だちとの関わりの中で、自分を外から見つめ、自分のしていることがより分かるようになります。直さなければならない自分や、誇らしい自分を発見し始めます。「○○したいけどどうしていいかわからない」葛藤はありますが、友だちを手本としたり、大人の支えを受け、**一步一步自分で修正しながらなりたい自分に近づいていこうとします。**また、その成長も、実感できるようになります。たとえ間違っただけでも、指摘するのではなく、うまくいくヒントをあげましょう。

友だちとの世界が大切になってきます。「みんなの中の自分」「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という視点を持ちはじめ、自分の役割を考えるようになります。

“発達は子どもの
願いから始まる”
白石正久著より

次回はまとめをします。

1月のご利用状況

1月の利用延べ人数は102名、一日平均利用人数は5.3人でした。年齢別では、1歳児と3歳児が各19名(19%)で最も多く、次いで2歳児の16名(16%)の順でした。疾患別では、急性上気道炎が35名で最も多く、次いでインフルエンザA型27名の順でした。その他、ヒトメタニューモウイルス感染症、RSV感染症、溶連菌感染症などがありました。ヒトメタニューモウイルス感染症は治療薬がなく、経過が長い他疾患に比べて入室期間が長くなりますが、保育士が一对一で対応するせいか、回復が早いように感じました。1月は入室をお断りするケースが4名ありました。